

## 首里城正殿等の再興に関する提言（案）

去る10月31日未明に発生した火災により首里城正殿を含む8棟が、また北殿や南殿等に保管されていた歴史的に重要な価値を有する文物も多数焼失し、未曾有の計り知れない損害が生じた。

日本復帰20周年の節目にあたる1992年の首里城正殿等復元は、その建物構造や建築技術、意匠、調度品に関する史料が先の大戦により失われ、再建が極めて困難な状況の中で、先人の叡智と県民国民の多大なる努力のもと成し遂げられた、まさに国家的・歴史的事業であったといえる。

また、その努力の甲斐もあって、首里城跡は2000年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界文化遺産に登録された。

我が国を代表する観光地域となった沖縄県の象徴である首里城の焼け落ちる様が、県民のみならず多くの国民、世界各国の方々に与えた大きな失望感に想いを致せば、沖縄を愛する一人ひとりの願いを受け止め、関係者が一丸となって再興にあたらねばならない。

当審議会は、ここにその総意として、首里城正殿を含む周辺施設の一刻も早い再建とかけがえのない文化財等の保全・保護に向けた今後の再興事業を推進するため、対策樹立に必要な措置を講ずるよう、下記のとおり提言する。

### 記

- 一、首里城正殿等の再興にあたっては、首里城正殿を含む周辺施設の一刻も早い再建とかけがえのない文化財等の保全・保護に向けた方針や計画を、できる限り早期にとりまとめられるよう努めること。

- 一、国・沖縄県・那覇市等の行政機関と民間組織・地域社会が一丸となり、互いに連携・協力しつつ、各々の役割分担を明確化し、再興に向けて邁進するよう努めること。
  
- 一、県内外から多くの寄附金が寄せられていることについては、沖縄の悲しみを共有し励ます心の現れであり、その期待に応えるべく、今後の再興事業へ役立てられるよう適切に対応すること。
  
- 一、四百点余りの重要な史料が失われ、沖縄県民・日本国民はもとより、全人類にとって重大な歴史的・文化的損失となったことにかんがみ、次代につなぐ文化財等の保全・保護の観点から、県内に所在する文化財等の保全のための盤石な防火・防災体制の確立を図ること。
  
- 一、今般の火災を契機とし、いま一度首里城再興を希求する沖縄の理念と歴史的原点に立ち返り、国際社会の中で新時代にふさわしい首里城の姿を描き、世界の平和と人類の幸福に寄与すべく、文化・観光・教育のための地域資源としての活用を図ること。

令和元年12月

沖縄県振興審議会